

教育子午線

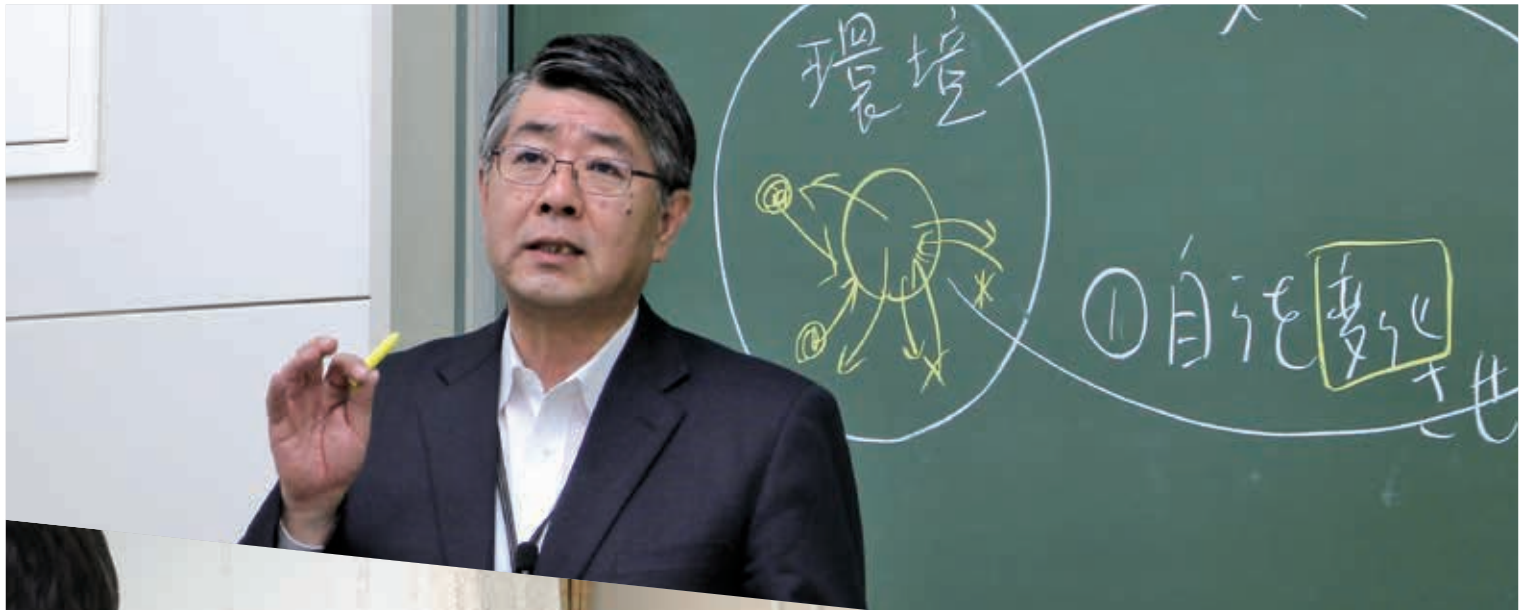
Kyoiku-Shigosen



国立大学法人
兵庫教育大学

June, 2017

vol.44



◎教育最前線

兵教大の研修事業 現代的ニーズを捉えた研修

現職教員のための 研修プログラム

社会は常に変化しています。特に21世紀に入って世の中の動きは加速していると感じておられる方は多いのではないのでしょうか。ですから当然、社会に生きる我々はその動きに対応する必要があります。どのような職業であれ、社会で働くすべての者が常に学び続ける必要があるわけです。教育現場で働く現職教員も同様です。「学び続ける教員」ということばは比較的最近よく聞かれるようになりましたが、当たり前のことを言っているに過ぎません。平成27(2015)年末の中教審答申(いわゆる3答申)においても現職教員の研修の充実と支援の重要性が示され、大学等と連携した研修や受講した研修の単位化などを協議する仕組みの構築についても示唆されています。さらに、管理職養成におけるマネジメント能力の醸成の重要性と現行の管理職研修の改善方策等についても示されているところです。

このような動きに先駆け、兵庫教育大学では、平成15年4月に兵庫県教育委員会との連携・協働により、兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発に関する調査研究会を設置し、平成16年度から「学校管理職・教育行政職特別研修」を開始しました。今年度は14回目の実施となりますが、毎年5月から6月にかけて200名以上の新任教頭、新任指導主事等の皆さんが本学で研修を受講されています。また、特別支援教育における地域のトップリーダー「アドバンスリーダー」の研修プログラム(平成25年度～)、英語指導力研修(平成26年度～)、指導主事の力量形成のための研修プログラム(平成28年度～)など、文部科学省や独立行政法人教職員支援機構の委託事業により、学校現場およびそれを支援する教育委員会等のニーズに応える研修事業を開発し、展開しています。上記以外にも、本学の多くの教員が、教育委員会や学校現場と連携した研修・講義・講演を行っており、その延べ数は1年間で数百件に達します。本学のこれほど多くの連携した取り組みは、全国の教育界から注目されていると言っても過言ではありません。

子どもをめぐる環境は、日々変化しています。すでに5年前の状況は今とは違っています。少子化がいつそう顕在化する10年後の学校現場を予測することは不可能に近いのです。今後とも、本学では社会変化・時代に素早く対応し、教育現場のニーズに応える研修内容を吟味していきたいと考えています。

学長 ふくだみつひろ
福田光完

学長室から
MESSAGE





兵庫県立特別支援教育センター主催「学校・地域・支援リーダー研修C」



大学と連携した英語指導力向上事業（関連ページ→p.14）

兵教大の研修事業

現代的ニーズを捉えた研修

現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成—兵庫教育大学のミッションの一つです。現職教員が再び学ぶ場であるとともに、教育委員会や学校等との連携により、その研修・研鑽を支えることも重要な使命です。時代の移り変わりに対応し、学校現場のニーズを捉えた新たな研修の形が求められる今、進化し続ける兵教大の研修事業を紹介します！



学校管理職・教育行政職特別研修（関連ページ→p.4）



英語運用能力向上研修プログラム（稲美町）

兵庫教育大学が取り組む「現代的ニーズを捉えた研修」一覧

研修事業名	連携機関	目的	対象
学校管理職・教育行政職特別研修 →p.4	兵庫県教育委員会 (平成16年度～)	学校経営と教育行政専門職の 力量形成	1期：県立学校の新任教頭等、 県教育委員会の新任指導主事等、 市町立中学校の新任教頭 2期：市町立小学校の新任教頭、 市町立特別支援学校の新任教頭
子供の成長と学力向上のための 市町村教育委員会指導主事の 力量形成プログラム →p.5	明石市教育委員会 (平成28年度)	指導主事の力量形成	市内の主任指導主事、 指導主事
教職大学院教員と指導主事等による 子供の成長と教員の 資質・能力向上のための 校内研究推進プログラム	伊丹市教育委員会 (平成29年度) 西宮市教育委員会 (平成29年度)	指導主事および 研究推進教員の力量形成	市内の主任指導主事、指導主事、 研究推進教員等
新しい時代に対応する 学校管理職マネジメント研修 →p.6	北海道立教育研究所 長野県教育委員会 神戸市教育委員会ほか (平成28年度～)	学校管理職の力量形成	小・中学校、高等学校、特別支援学校の 管理職（校長、副校長、教頭）
大学と連携した 英語指導力向上事業 →p.14	兵庫県教育委員会 (平成26年度～)	今後の兵庫の英語教育を担う 指導力の習得	県立高等学校教員、 市町組合立小学校教員、 市町組合立中学校教員
英語運用能力向上 研修プログラム	猪名川町教育委員会 (平成28年度～)	グローバル人材の基礎となる 英語運用能力の向上	町内小学校教員
	稲美町教育委員会 (平成28年度～)	グローバル意識の向上	町内幼稚園、 小・中学校教員
	伊丹市教育委員会 (平成29年度～)	外国語活動に対する 意識改革と指導力向上	市内小学校教員
特別支援教育における 地域のトップリーダー 「アドバンスリーダー」の 研修プログラム開発	兵庫県立特別支援教育センター (平成25年度～)	特別支援教育の 地域トップリーダー育成	特別支援学校のコーディネーター、 支援部員
	岐阜県多治見市教育委員会 (平成28年度～)		市内特別支援教育コーディネーターの 一部

理論と実践を兼ね備えた管理職の養成へ 「学校管理職・教育行政職特別研修」

教育行財政の地方分権化と自主的で自律的な学校経営を進める改革の中、教育行政と学校経営の在り方が大きく見直され、その担当者には新たな力量が求められる時代となっています。「学校管理職・教育行政職特別研修」は、これからの兵庫における教育行政と学校経営を担う学校指導者が、その基礎となる理論を学ぶと

もに、改善を実践できる力量を身に付けることを目的に、本学と兵庫県教育委員会との連携企画として平成16（2004）年度にスタートしました。

指導主事や管理主事をはじめ、県内外の学校関係者を講師や助言者として招くなど、多彩な指導スタッフで構成されています。

間の研修を通して、教育法規や学校危機管理、地域との連携協働等の内容について、メンバーを固定したコーホート（学習を協力して行う同僚集団）で現状の課題やその解決方法などを共有、学習を深めるとともに、リーダー間のネットワークを形成しています。

基礎となる理論を学ぶと

委員会の各課、教育研修所等

です。演習を中心とする5日

研修は、日々複雑化・多様化する

る教育現場への対応が求められる兵庫の学校経営・教育行政の指導者にとって、欠くことのできないものとなっています。



連携機関の声



兵庫県教育委員会事務局教職員課課長
いまい かず ゆき
今井一之さん

平成16年にスタートした「学校管理職・教育行政職特別研修」も、今年度で14回目となりました。この間、延べ3,376人の学校管理職・教育行政職員が受講し、県内の公立学校（神戸市を除く）に在籍するほぼ全ての管理職が受講を終えて勤務しています。

本研修では、発足当初から国、県の施策、学校組織マネジメント、危機管理等、学校経営に必要な不可欠なプログラムを一貫して実施しているほか、学校を取り巻く状況に対応した事例研究や演習を取り入れています。また、5日間の期間中、同じグループで研修に取り組むことにより、同期の管理職との横のつながりが強くなる効果も生まれています。

発足時から体系的な管理職研修のカリキュラムモデルとして全国から注目を集める同研修ですが、毎年、内容や方法について大学と検討し、その時々に応じた研修となるようブラッシュアップを重ねています。今後も兵庫教育大学との連携を密に図り、学校経営に必要な力量を獲得できる研修となるよう、より一層の充実に努めていきます。

事業責任者の声



学校経営コース長
あさの りょういち
浅野良一 教授

「学校管理職・教育行政職特別研修」の特徴は3つあります。第1に、研修企画に際して、学校管理職・教育行政職に求められる力量を整理し、その実践ができるように16科目25時限を配置していることです。また、数多くの科目候補から、現場や自己啓発で学ぶより集合方式の研修の方が効果の上がるものを精選しています。

第2に、研修で学んだことの実践への橋渡しの工夫です。理論や制度を紹介した後、事例で演習し、それを踏まえて、わが校での活用を検討します。また、受講生は毎回、研修振り返りシートを書き、研修終了後には「研修内容のまとめ」「自己認識の変容レポート」「自分自身の職能開発プラン」を提出し、研修で学んだことの定着を目指します。

そして第3は、PDCAサイクルです。研修後の受講者アンケートでは、科目ごとに評価を出しています。それらを参考に、毎年度、科目の内容や進め方を改善・改訂しています。本年度は、25時限のうち5時限に大幅な見直しが入りました。以上3つの特徴を今後も継続しようと考えています。

平成29年度実施概要

日程	研修テーマ
1期：5月17日～19日、 6月12日～13日	1日目 教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント 2日目 学校経営ビジョン・業務改善
2期：5月31日～6月2日、 6月19日～20日	3日目 教育法規と学校危機管理・いじめ問題対応 4日目 労務管理と地域の連携協働・カリキュラム開発 5日目 学校評価と教職員評価・育成

対象者

1期（111人：男性88人、女性23人） 県立学校の新任教頭等、県教育委員会の新任指導主事等、市町立中学校の新任教頭
2期（129人：男性89人、女性40人） 市町立小学校の新任教頭、市町立特別支援学校の新任教頭

連携機関

明石市教育委員会

現場のニーズに合わせたオーダーメイド型の研修を実現

「子供の成長と学力向上のための市町村教育委員会指導主事の力量形成プログラム」

子どもの成長と学力向上を支え、「チーム学校」を推進する上で教育委員会や指導主事が果たす役割は大きく、学校の教育課程、学習指導、その他学校教育に関する専門的な指導・助言等と多岐にわたります。しかし、そのための専門性を高める研修等の機会は不足しているのが現状です。そこで、指導主事に求められる力量形成の

ための研修が必要であると考えました。

プログラムでは教育委員（会）との協議により、学校経営、教科指導、生徒指導、特別支援など明石市の小・中学校が抱える課題を研修テーマの中心とし、各テーマに対応できる本学の教員を講師として決定。そして、各回の担当指導主事と講師が打ち合わせて具体的な内容を固めていきました。まさに、明石市のニーズに応じたオー

ダーメイド型の研修を実現したのでです。

研修参加者（指導主事）の事後アンケートからは、学校教育現場との連携の重要性について述べる意見が多く見られるとともに、この研修で身に付けたスキルを学校教育現場に還元していこうとする考えが醸成されたことが伺えました。平成29年度以降は、この研修プログラムが

より実践的なものとなるよう、内容をレベルアップさせていく予定です。

開始しました。

石市のニーズに応じたオー

ダーメイド型の研修を実現

のでです。



連携機関の声



明石市教育委員会事務局次長（指導担当）
ひら たかゆき
平田高之さん

本市教育委員会に在職する指導主事の多くは、学校現場に戻り管理職になります。しかし、年齢や経験年数の幅や配置部署も多様で、研修は自身の職務に係ることが中心で機会も限られており、「学び続ける指導主事」であるための組織的な研修体制の構築が課題となっていました。

本プログラムでは、研修内容を本市の学校現場が抱える課題とし、各回の研修テーマに沿った担当課・担当者による問題提起を取り入れました。講師との打ち合わせなどを密にすることで指導主事の調整能力やプレゼン能力等の向上を図ることができました。また、グループ演習が多く、自身が管理職ならどのように対応するのかという視点を持ち、学校への指導助言について具体的な協議ができました。課題の捉え方、課題解決の着眼点、アドバイスポイントについて演習を進め、学校経営ビジョンだけでなく、成果指標等の見直しについても助言を受け、本市の教育施策を見直す良い機会にもなりました。

事業責任者の声



こめ たか
米田 豊 副学長

本事業（教員の資質向上のための研修プログラム開発事業）は、平成28年度に、独立行政法人教員研修センター（29年度から独立行政法人教職員支援機構）の委嘱を受けて、「子供の成長と学力向上のための市町村教育委員会指導主事の力量形成プログラム」の開発を、明石市教育委員会と本学の教職大学院を中心とした教員が共に行ったものです。

本プログラムの大きな特色は、明石市の担当指導主事が学校教育現場の教育課題を分析し、それを解決するための研修の内容を本学教員と共に創り上げたことにあります。また、担当指導主事を中心に全ての部署の指導主事が、それぞれのプログラムに参加したことにあります。なぜなら、指導主事はいずれ管理職として学校教育現場に戻ります。学び続ける指導主事は、学び続ける管理職となり、学び続ける教員と子どもを育てることになるからです。

明石市教育委員会との研究成果が各地に広がることを期待しています。

研修プログラム

日程	研修テーマ	参加人数
平成28年7月14日	第1回 市町教委指導主事の力量アップのために	34人
7月19日	第2回 生徒指導のいまとこれから	30人
8月29日	第3回 教科指導の支援	25人
8月31日	第4回 特別支援教育の充実	25人
10月21日	第5回 向上心をもって学び続ける指導主事	24人

シンポジウム

日程
平成28年12月3日
テーマ
指導主事の力量形成と資質向上 —子供の成長と学力向上のために—
参加人数
60人

連携機関

神戸市教育委員会ほか

学校管理職の組織運営能力向上のために

「新しい時代に対応する学校管理職マネジメント研修」

現在、多くの学校管理職研修に用いられているテキスト「学校組織マネジメント研修」

からの校長、教頭等のためには、国をはじめ都道府県、市町村において、管理職に必要な研修プログラムとして定着しています。その中で、マネジメント

の基本原理は、①管理職は組織のビジョン「共通目標」を打ち出すこと、②「現状」を把握すること、③目標と現状のギャッ

プから課題を捉え、資源を有効に活用し方策を立てることの3点であり、①→②→③の順番にマネジメントを進めることと

記されています。それにより、学校は校長という組織のリーダーが組織のビジョンである「学校教育目標」をしっかりと打ち出すことが通例となります

た。このため、「学校教育目標」を校長一人で考えることとなり、教職員、児童生徒、地域保護者との共有は十分とは言えない状況です。

文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の一環として、本学では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正や平成27年12月21日中央教育審議会答申を受け、この順番性を②→①→③と並べ替える必要があるとの考えから「新しい時代に対応する学校管理職マネジメント研修」

を開発しました。これは学校における組織マネジメントをいわゆる「企業型から公務員型に」変える作業といえるでしょう。研修に当たっては、六つのテキスト(情報収集、分析、構想、企画、実行、判断)を作成し、全国への波及効果も考慮した上で、講師育成も行っています。

28年度には全国6地域で約千人の学校管理職を対象に研修を実施。29年度は前年度の研修内容をステップアップも含め、9地域に広げて約1300人を対象に、各地域のニーズに応じた体制で行う予定です。

9地域に広げて約1300人を対象に、各地域のニーズに応じた体制で行う予定です。

9地域に広げて約1300人を対象に、各地域のニーズに応じた体制で行う予定です。

9地域に広げて約1300人を対象に、各地域のニーズに応じた体制で行う予定です。

9地域に広げて約1300人を対象に、各地域のニーズに応じた体制で行う予定です。

9地域に広げて約1300人を対象に、各地域のニーズに応じた体制で行う予定です。

連携機関の声



神戸市立高羽小学校校長
(前神戸市教育委員会 総合教育センター首席指導主事)
いな がき たけし
稲垣 健さん

学校現場には対処しなくてはならない課題が多くあります。学力向上、いじめ対策、インクルーシブ教育、道徳・英語の教科化などに加え、教員の多忙化対策もクローズアップされてきました。それらを総合的に解決しようと思えばカリキュラム・マネジメントが重要ですが、組織力の強化に向けて、管理職の学校運営能力向上も欠かすことはできません。

しかし、人は自己の経験値の中から判断し行動する傾向があり、新たな状況や未知の分野にどう対応したらよいかを学ぶ機会意外と少ないものです。本研修は知識を持ち帰ったり正解を探したりするのではなく、参加者同士の意見交換や事例研究を通して考え方を学び、学校管理職としてのマネジメント能力を向上させることを目指しています。

自身の傾向(クセ)や弱点に気付かせてくれる大変貴重な機会になりました。

事業責任者の声



教育政策リーダーコース長
ひ わたし まどか
日渡 円 教授

平成27年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正は、教育行政への影響は言うに及ばず、学校現場にも大きな影響を与えるものでした。今回の改正では、戦後確立した教育委員会制度の原則でありながら教育の世界ではどちらかという軽んじられてきた、教育における民主性の担保や地方分権がクローズアップされました。

これらの改正を受けて、学校現場の意識を変えることは非常に重要なことです。文部科学省はこれらのことから、兵庫教育大学先端研究推進機構を中心に構成する研究会に、新教育委員会制度下における学校管理職研修プログラムの開発研究を委嘱し、5年目を迎えています。

プログラムは現在も開発中ですが、マネジメントとリーダーシップについて、完成すれば12のテキストから構成される予定です。現在、北海道、長野県、福井県、三重県、長崎県、沖縄県、浜松市、神戸市、函館市、下関市がこのテキストを使い、半日から一週間の範囲でそれぞれの状況に応じて管理職研修を実施しています。



平成29年度実施予定

対象者

北海道	小学校、中学校、高校、特別支援学校の副校長、教頭、校長2年目以上46人
長野県	小学校、中学校、特別支援学校の校長(新任約100人、2年目約400人)
福井県	小学校、中学校、高校の新任教頭約80人
三重県	小学校、中学校、高校の新任教頭約120人
沖縄県	小学校、中学校の校長、指導主事約90人

対象者

神戸市	2年目の校園長約40人
函館市	小学校、中学校の校長、教頭(新任、2年目、3年目)約70人
浜松市	小学校、中学校の校長約150人
延岡市	小学校、中学校の校長約40人



さし くま まもる
指熊 衛

兵庫教育大学附属小学校
教諭

●「理論と実践の融合」に関する共同研究活動とは
兵庫教育大学のミッションの一つである「教育実践学
の推進」をより一層図り、その成果を国内外に発信
し、学校現場や教育委員会のニーズに応えるため、平
成23(2011)年度から「理論と実践の融合」に関する
学際的な共同研究を教員から公募し展開しています。

研究レポート

地域における算数の授業研究会を通じた、 教師の力量形成プログラムの開発

(平成27・28年度「理論と実践の融合」に関する共同研究活動に採択)

本 研究では、附属
小学校教員を

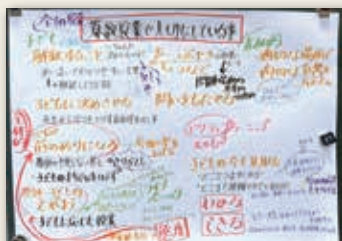
中心として立ち上げた
地域における算数授業
研究会「共に算数を語
る会」が、授業研究を
中心とした活動を通
して、どのように若手
教員が力量形成してい
くのかを明確にするこ
とを主な目的としてい
ます。同会は、算数科
教育を中心としてい
ますが、学校教育全般に
わたることも対象とし
ます。自身の教育実践
を語り、そして他者の
教育実践を聴く場、言
い換えれば、互いの教
育実践を語り合う場と
して設立した授業研究
会です。具体的には、昨
年度は「授業ビデオの
事例研究」「教材研究」
「学会や研究発表会
への参加」「実践発表」
「書籍作成」の5つの
活動を行いました。この
プログラムが教員の力
量形成にどのように有
効であったのかを「表」
に整理しました。

【表】教師の力量形成プログラム

活動内容	力量形成
(1) 授業ビデオの事例研究 (授業の映像を見合い、グループで意見交換する)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 授業を見る視点が增える。 ▶ 授業で使う言葉が増える。 ▶ 自分の課題を知る。
(2) 教材研究 (全国学力調査を分析し、指導案を作成する)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 視点を増やした段階で、自分自身の手で指導案「ボイスチャート」を作成する。 ▶ 分析や指導案を作成するプロセスの中に自然と算数の教材研究が入ってくるので、教科研究の力がつく。
(3) 学会や研究発表会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新たな視点を入れる。 ▶ 外部での実践の紹介や意見をもらうことで、知見を増やし学びを深めていく。
(4) 実践発表 (自身の1年間の実践をまとめ、プレゼン発表する)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1年間、自身が実践してきたことを整理する。 ▶ 自分の成長の実感と次への課題の明確化をする。
(5) 書籍作成 (自身の実践について分析し文章にまとめる)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 書く活動を通して、自分の実践を振り返る機会になる。 ▶ 授業の発話記録を書き出すことで、客観的に自分を振り返ることが出来る。 ▶ 書く活動の途中で関係した文献を読むので、実践と理論がつながっていく。



授業ビデオ視聴の様子



グループの意見を整理した模造紙



グループで意見を交換する様子



作成した書籍「『この子の算数に培い 拓く子どもの声で授業をデザインする』」

【表】のような授業研究会のプロセスの中で、若手、中堅教員、メンターなどさまざまな立場の教員が共に高め合っている関係性が重要です。つまり、若手教員とメンターの関係が、教えてもらう・教える関係ではなく、共に高め合う関係であることが重要です。学習会に参加して聴くだけで、力量がいったような感覚になりませんが、本当の力量形成にはなかなかつながっていないのです。やはり、【表】の(1)～(5)の多様な活動を、段階を追って経験していくプロセスが一人一人の力量形成につながっていくのです。

この先生にズームイン

スペイン語が堪能
 派遣留学時代は「ドン・キホーテ」の作者、ミゲル・デ・セルバンテスの生まれた街としても有名なアルカラ・デ・エナーレスに暮らし、世界各国から集まった留学生たちと交流を深めた。そこで鍛えた語学力は今も健在。奥さんがスペイン系のため、家での会話はもっぱらスペイン語どか。



教え子たちとの絆は今も
 メッセージで埋め尽くされた寄せ書きボールと、名前入りの泡盛はそれぞれ、高校を離任する時に野球部員とその保護者から贈られたもので、今も大切に保管している。最近はその頃の教え子から結婚式に招かれる機会も増えているそう。「卒業後も、彼らの成長ぶりを身近に感じられるのは幸せなことです」



旅した国は80カ国以上
 「ポケットに残ったコインを入れていたら、いつの間にかこんなにたまっていました」。特に印象深い国は、文化が多様で食べ物おいしいメキシコや、自然豊かなニュージーランド。旅先では地元のお酒を味わうことも楽しみの一つだという。



現在の道に進むきっかけ
 教員としての成長を求め、自ら志願して海を渡ったニカラグアでは、国立経営経済技術学校で教育経営などに携わった。その経験が、大学院で教育経営を専攻するきっかけに。写真は、当時デスクに置かれていたネームプレートと、木彫りの国章、コップとしても使える木の實をくり抜いた民芸品。



実は甲子園経験者
 「教員になったのは、高校野球の顧問にならなかったから」と明言するほど大の野球好きで、高校在任中はずっと、コーチや監督として野球部に関わっていた。指導者時代の最高成績は、浦添商業高校での夏の甲子園ベスト4。心身のコンディショニングに加えて、メディア対応や応援団の取りまとめなどにも奔走したという。



とう やま きよ さね
當山清実 准教授
 学校経営コース
 沖縄県出身。平成元(1989)年、大学卒業と同時に商業科教諭となり、沖縄県内の高校で勤務。5年に青年海外協力隊員としてニカラグア共和国に派遣され、国際協力活動に従事。その後、スペイン・アルカラ大学、兵庫教育大学大学院(修士課程・博士課程)で学びを深める。沖縄県教育庁社会教育主事、県立那覇商業高校教頭などを経て、27年から現職。専門は教師教育、教育経営。授業は「教員の社会的役割と自己啓発」「学校危機管理の理論と事例演習」(ともに専門職学位課程)などを担当。

先生に質問!

先生に質問! 先生に質問! 先生に質問!

A 学校経営コースの学生は全員が現職教員で、将来、管理職や地域のリーダーとして活躍することを嘱望されています。私自身も現職の時に兵教大大学院に派遣され、現場に戻った後に博士課程に進学したという同じような道を歩んできたので、その経験を踏まえて職場や地域で求められる役割を伝えるようにしています。修了後は多様な経験を生かして、さらなる研究の発展と実践への還元を目指してほしいと思います。高度専門職業人として、教育界の活性化を先導していく存在になってくれることを期待しています。

Q 学生への指導で心掛けていることは。

A 最近では学校の危機管理に関する幅広いテーマでの要請が増えています。共通して、全ての教職員に当事者意識を持たせ、関係機関の協力も得ながら予防に努めるべきと強調しています。また、未然防止のポイントに加えて、危機発生時の対応から再発防止策まで、具体的な事例を盛り込むようにしています。

A 最近では学校の危機管理に関する幅広いテーマでの要請が増えています。共通して、全ての教職員に当事者意識を持たせ、関係機関の協力も得ながら予防に努めるべきと強調しています。また、未然防止のポイントに加えて、危機発生時の対応から再発防止策まで、具体的な事例を盛り込むようにしています。

Q 管理職や指導主事向けの研修でも講師を務められているそうですね。

A 教員には職務遂行能力を高めるために、さまざまな研修を受ける機会があります。各研修がいかに有効に作用しているかを明らかにするとともに、学校経営や教育行政の視点から職能開発を促進する支援の在り方に関する研究に取り組んでいます。

A 教員には職務遂行能力を高めるために、さまざまな研修を受ける機会があります。各研修がいかに有効に作用しているかを明らかにするとともに、学校経営や教育行政の視点から職能開発を促進する支援の在り方に関する研究に取り組んでいます。

Q 専門の研究内容は。



同窓生からの手紙

28年度
文部科学大臣
優秀教職員表彰
受賞

丹波市出身。平成11(1999)年、学校教育学部社会系専修コースを卒業後、社会人等を経て小学校教諭として勤務。22(2010)年に特別支援教育コーディネーターコースを修了。新温泉町で学校生活支援教員(通級指導教室担当)として7年間勤め、本年度から現職。



かたせ きよし
片瀬 廉士さん

兵庫県立出石特別支援学校みかた校教諭

内面を理解し支えることの 大切さを学びました



←教室で健康観察をしている様子

当

時、「スキルアップ
したい!」という
単純な思いだけで、大学
院での学びを始めました。
在学中、一番学びが深かつ
たことは、教育現場で行
われた実習でした。表面
的なスキルだけでは駄目
だと気付かされたのです。
特別支援教育コーディネ
ーターは脇役です。主
役となる子ども、保護者、
先生方の内面を理解し
支えることが、何よりも
重要だったのです。見えな
いものを見ようとする力
です。

現場に戻ってからでも常
にそれを心掛け、意欲や
自信を高める通級による

指導、悩みや具体的な方
法を共有する教育相談
に取り組みました。子ど
もも持っている力が発揮され
成長を保護者や先生方
と共有できた時はうれし
かったですね。

本年度から学校が変わ
り、中学部生徒の担任を
しています。新たなチャレ
ンジですが、過去の経験
ばかりにとらわれず、常に
新たな視点と学ぶ姿勢を
持ち、うまく融合できれ
ばと考えています。

最後に。多様性が求め
られているこの時代、皆さ
ん自身がより魅力的で多
様性のある人間となるこ
とを目指してくださいね。

LETTERS FROM OB & OG

28年度
文部科学大臣
優秀教職員表彰
受賞

平成14(2002)年、学校教育研究科教科・領域教育専攻言語系コース(英語)修了。現任校では研究部主事、グローバル教育推進室室長として国際交流、ユネスコスクール関連事業をコーディネートし、体験からの課題探究を通じたグローバルリーダーの育成に尽力している。



いわみ りか
岩見 理華さん

神戸大学附属中等教育学校教諭

人との出会いを 大切にしてください

→米国シカゴ国際交流校受入れ事業の様子



— つの高校で担任として卒業生を送り出し、キャリアアップと授業改善を目的に大学院に進学しました。当時はインターネットを利用した教材や指導方法が教育現場にも普及し始めた頃で、パソコンもできないのにコンピューター支援による協調学習をテーマに研究に取り組みました。ゼミでは社会文化的理論に基づく英語教育について指導を受け、このたび公示された新学習指導要領を支える学習観について20年近くも前から教えていただいていたのだと感謝しています。

大学院で出会った方々とは今も交流が続いています。現任校はSGH指定校で、ユネスコスクールにも加盟しており、国際交流事業も積極的に展開しています。そのような活動を支えているのはやはり人的ネットワークで、人とのつながりの大切さを実感しています。

グローバルな意識というのは決して観念的に形成されるわけではなく、特に若い学生の方には「経験すること」が必要だと思います。さまざまな経験を通して得られる新しい人々との出会いを大切にしてください。

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

第37回

大学院同窓会総会・研究大会【関東大会】の開催

大学院同窓会総会は各都道府県支部の持ち回りとしており、今年は東京都で開催します。詳細については「Hyokyo-net」をご覧ください。

- ◎開催日 8月5日(土)・6日(日)
- ◎会場 アルカディア市ヶ谷 私学会館(東京都千代田区)
- ◎内容 修了生の教育実践研究活動等に係る表彰、教育実践発表
講師: 福田光完学長、永田繁雄東京学芸大学教職大学院教授
巡検: 選択型 ①「下町こいイチ」コース、②「表参道・渋谷ブチッとドライブ」コース、③「靖国神社と国会議事堂」コース、④「皇居東御苑」コース

Data

実施日／3月15日
 実施場所／共通講義棟304室
 参加者／体育系：55人〔課外活動団体の次期リーダー48人（24団体×2人）、指導学生（体育会役員）5人、教職員2人〕
 文化・芸術系：20人〔課外活動団体の次期リーダー16人（8団体×2人）、指導学生（文化会役員）2人、教職員2人〕

【主な内容】

討議テーマ▶体育会／文化会としてのこの1年の振り返り
 一次年度の活性化にむけて—
 全体研修▶フランクリン・コヴィー・ジャパン(株)による、フランクリン・コヴィー・エデュケーションセミナー「7つの習慣」を軸としたリーダーシップ教育プログラム研修(大学生向け)



クラブ紹介 平成28年度リーダーズセミナー

LEADERS SEMINAR

リーダーとしての
資質向上を目指して

リーダーズセミナーは、各クラブの代表者が集まって研修を受けたり、それぞれの現状を互いに討議したりして、より良いクラブを目指すものです。平成28年度は「学生リーダー向け『7つの習慣』」の研修を受けました。例えば、「自分と他者のWiCoWiCoを考えるようにする」だったり、「目的を持って行動する」などです。その中で特に印象に残っているのは、基礎原則である「広い視野を持ち、パラダイムを変えること」。それが、長期的、本質的な変化を得るために必要であるということです。

教員になり担任を受け持つことは、子どもたちのリーダーとなることだといえると思います。そこで、このセミナーで学んだ習慣を身に付けて、子どもたちをしっかりと成長させることのできる教員になりたいです。

紹介者



相良尚希さん

学校教育学部
生活健康系コース4年

課外プロジェクト紹介

プロジェクト名

HICプロジェクト



↓もちつき大会の様子



↑(左から)古泉啓悟さん、ドミンゲス・ガルフィアス・バメラさん(平成29年3月修了)、鎌田奏さん(同)、普輪崎捺月さん、岡田陽南さん、(手前)原直子さん

学内を舞台に国際交流の機会を提供

兵庫教育大学国際交流サークル(HUTE International Circle)は、留学生と日本人学生が共にイベントを企画・運営することで異文化理解を深めるプロジェクト活動を行っています。平成28(2016)年度は、日本の「栗ご飯」の調理・試食とメキシコの「ピニャータ割り」を体験する異文化交流会を開催し、大学祭ではベトナム料理「フォー」の屋台を出店しました。さらに、留学生のフレンドシップファミリーを中心とした地元の人々の協力を得て、日本文化を体験しながら交流を深めるイベント「もちつき大会」と「節分」を開きました。今後も、相互理解を促すさまざまなイベントを企画し、活動を展開していく予定です。

プロジェクト名

カンボジアと日本をつなぐ手紙トラベラー

⇒(後列左から)笠原健志さん、廣瀬綾香さん(平成29年3月卒業)、川口智史さん、(前列左から)岡田陽南さん、普輪崎捺月さん



↓カンボジアでの活動の様子



子どもたちの国際交流をプロデュース

学校教育学部の学生を中心とした5人のメンバーが取り組んだのは「一通の手紙」で2つの国の子どもたちをつなぎ、互いの国について理解を深めさせることでした。日本の子どもたちにカンボジアと「手紙の良さ」について理解を促す授業を行い、子どもたちが書いた絵手紙を携えてカンボジアへ。今度はカンボジアの子どもたちが書いた返事を預かって日本の子どもたちへ。一通の手紙から「相手のことを知りたい」「一度、会ってみたい」という国際理解教育における最も重要な基礎となる部分を育てるという目的を達成した今、メンバーたちは「さらに相互理解や交流を深める活動を続けていきたい」と意欲を新たにしています。

日 本では6人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれている。そんな中、学校教育学部4年の多田実乗さんは「兵庫子ども支援団体」を仲間と立ち上げ、経済的・家庭的に厳しい状況に置かれている子どもたちへの学習支援や虐待防止支援、小児がん・難病支援などを展開してきた。その活動が評価され、昨年11月に第10回よみうり子育て応援団大賞奨励賞を受賞。社会的に認められたことで、「活動はもはや自分たちだけのものではない」とNPOの法人格も取得した。

最初の一步は高校1年生の時。友人や生徒会を巻き込み、児童虐待防止推進月間の11月に街頭で啓発活動を行った。「何かやりたいなと考えた時に、中学校でオレンジリボンをもたらったことを思い出して」と軽い気持ちで始めたという活動は、翌年も、その翌年も続けた。そして3年生の秋、卒業後も子どもたちのためになることをしたいと、共に兵教大に進学した言語系コース4年の横山和可さん、今は別の大学で同じく教員を目指している同級生と3人で設立したのが同団体だ。大学に入学後の1年間は

他のNPO法人で運営ノウハウを学び、2年生の5月に明石市内の公共施設の一室を借りて学習支援事業を開始した。低所得世帯や一人親家庭、多子世帯などの小中学生に対し、週1回、大学生や社会人のチューターがボランティアで学習指導をするというもので、昨年には加東市内でも教室を開いた。

参加者は口コミなどで徐々に増え、現在は明石18人、加東9人が登録している。参加費はひと月600円を上限とし、小学生には自分たちで作ったテキストも用意。学習中は雑談を交えたりグループワークを組み込んだりして子どもたちが飽きないよう工夫し、勉強の習慣化には保護者の協力も不可欠と、学習記録ノートを使ってコミュニケーションを取っている。

「子どもたちに身に付けてもらいたい力を育むために、やりたことはたくさんあります」と話す自身の将来の夢は、小学校の教員。「学習支援を通じて子どもがどこにしまづくのか分かってきました。それらを実際の授業でもフォローできるよう、しっかり教材研究をしていきたいです」



厳しい状況に置かれている子どもの成長を手助けしたい

キラリな人

た だ み の り
多田実乗さん

学校教育学部
自然系コース4年

平成7(1995)年、明石市生まれ。県立明石北高校在学中の23年11月に仲間と「兵庫子ども支援団体」を設立し、27年5月に小学4年生から中学3年生までを対象にした学習支援事業(学習支援「かがやき」)を開始。立ち上げ当初から代表を務める同団体は昨年、第10回よみうり子育て応援団大賞奨励賞を学生団体では初めて受賞した。
兵庫子ども支援団体ホームページ
▶<http://hpcso.com/>



「明石かがやき」での学習支援の様子

データで見る兵教生

～「兵庫教育大学トビタテ海外派遣プログラムガイドブック2017」から検証～

兵教大生と海外体験

未来を見据え 経験を深める機会に

兵庫教育大学では、海外の交流協定大学等との連携により、現地の学校視察や文化研修、現地の子どもたちや学生との交流など、さまざまな海外派遣プログラムを毎年実施している。参加学生の内訳を見ると、全体としては大学院生が学部生をやや上回っている。ただし、体験レポートからはどちらも、単なる異文化体験・交流の機会ではなく、教員としての未来を見据えて参加であることがうかがえる。

次期学習指導要領では、「外国語活動の充実」とともに「体験活動の充実」も示されている。教員として子どもたちを導くために、自身の経験を深める機会にしてみてもどうだろうか。

経験談を子どもたちに伝えたい

「学生の中に海外に行きたい」と参加したオーストラリア英語研修プログラムは、毎日が刺激的で充実していました。平日はINFORUMという学校に通い、担任の先生が丁寧に教えてくれるので楽しかったです。休日は自由な時間もあり、短期間でもオーストラリアを満喫できました! 将来、教員になったときに体験談を児童に話したいです。また、現地で買った北半球と南半球の入れ替わった世界地図を授業で使いたいと思います。



あしだりえ
芦田莉恵さん
生活・健康系コース4年
オーストラリア英語研修プログラムに参加

HYOKYO'S DATA

欧州文化研修プログラム
(フィンランド)



海外派遣プログラム
派遣実績(平成28年度)

プログラム名	学部生	大学院生
第4回DHPプログラム(韓国(大邱))	9	
欧州文化研修プログラム(スイス)		7
オーストラリア英語研修プログラム	6	
欧州文化研修プログラム(フィンランド)	4	7
ベトナム現地体験研修プログラム	2	9
計	21	23



オーストラリア
英語研修プログラム



ベトナム現地体験
研修プログラム



おだとしあき 小田俊明 准教授

生活・健康・情報系教育コース
欧州文化研修プログラム(フィンランド)を引率

現地に行かないと
分からないことが
いっぱい!

世界各国で行われている本学の海外短期派遣プログラムでは、現地学校の授業を観察したり教職員に話を伺ったりと多様な体験が可能です。語学、サブカルチャー、国際理解など、きっかけはさまざま良いと思いますが、ぜひ学生のうちに留学経験を持つことをお勧めします。行かないと分からないことがたくさんあります。異文化を経験し、日本と比較することができれば、皆さんの日常にあふれる事象も違ったものに見えてくるかも。

魅力的な内容に
引かれ参加
教育を考え直す機会に

何気なく兵教大のホームページを見ていたら募集記事が目にとまり、直感的に「行きたい」と感じました。現地の教員養成大学や小学校を訪問し交流するというもので、しかも旅費は大学の補助があり比較的安いのです。学校経営を学ぶ私にとって、異国の学校の経営トップの人たちとのセッションは、必要な知識・技能を身に付け、社会性を育てるという教育の基本や公教育の在り方などをあらためて考える良い機会になりました。

たなか やすお 田中康夫さん

専門職学位課程
学校経営コース2年
ベトナム現地体験研修プログラムに参加



ワタシのイチオシ

心に残る映画、つい口ずさむ音楽、
行きつけのスポットや思い出の一冊。
みんなにも薦めたい私のお気に入りを紹介。



「ゴッド・ヘルプ・ザ・ガール」
DVD ¥3,800(税抜)
※平成29(2017)年6月現在
発売元/アット エンタテインメント
販売元/TCエンタテインメント



きたばやし かずき
北林和樹さん
学校教育学部
自然系コース4年

MOVIE

全てがパーフェクトなミュージカル映画!!

ベルリン国際映画祭をはじめ、サンダンス映画祭など、さまざまな映画祭で注目を浴びた作品。拒食症で入院していた主人公イヴが、病院を抜け出した先で出会った仲間たちと音楽を作り始めます。魅力的なのにごく孤独を感じさせるイヴと、密かに彼女に恋をする草食系男子のジエームズ。甘くて切なすぎる恋、一生忘れられない夏がポップな音楽で始まります。この作品を見て、主人公の「儂くて、美しい」歌声にたくさんの勇気ももらいました。心躍る音楽、ポップな衣装、主人公の心情の変化、全てがパーフェクトです。ぜひご覧ください！

日本語の美しさが感じられる切ない歌

泣 き笑いせつなポップ3人組(今放牧中)いきものがかりの歌に高校時代から魅了され、全ての曲を聴いています。名曲ぞろいの中、個人的には山下穂尊さん作詞作曲の歌が好きです。そして、吉岡聖恵さんの歌唱力はいつ聴いても素晴らしいですね。
その中から、「真昼の月」を紹介したいと思います。古語でつづられた歌詞は日本語の美しさが切ないほど感じられ、澄んだ月光を思わせるメロディーは少し演歌風。和のアレンジが、聴くたびに耳の奥に残ります。良かったら、聴いてみてください。

MUSIC



ちよう よく
張 翊さん
修士課程
言語系教育コース2年

いきものがかり
「ハジマリノウタ」
発売元/エピックレコードジャパン



賀茂川沿いの桜並木



とみ た あきのり
富田明德さん
専門職学位課程
教育政策リーダーコース2年

SPOT

Road of Sakura
この数年間、桜の季節になると必ず訪れる場所があります。京都市内の賀茂川に架かる御園橋から北山大橋に至る約1kmの川沿いの桜並木です。桜の名所が多い京都ですが、人は若干少なめで開花時期は少しだけ遅く、入学式等が一段落した時期でも落花盛んな桜を見ることが出来ます。上賀茂神社の「御所桜」「斎王桜」という有名な桜の木を楽しんだ後、神社前でお土産の「やきもち」を買い、賀茂川沿いに点在するカフェやレストランで休憩しながらゆっくり桜並木を散策する。さあ、いよいよ新しい年度が始まったという気持ちになります。

学ぶことの理由を探して

な ぜ勉強するのか、考えたことがありませんか。もしかしたら、この本の中に答えの一つが見つかるかもしれません。迷子の子猫ルドルフが出会ったのは大きなノラ猫。イッパイアッテナという変な名前のその猫は、ルドルフにノラ生活のイロハと人間が使う文字を教えながら、口癖のようにこう言います。「教養のあるねこにならなきゃならないぜ」。さて、私たちはこんなに勉強をしたりさせたりしていますが、果たして教養のある人間になれているかどうか。街の片隅で暮らす二匹のノラ猫が、自分を振り返るチャンスを与えてくれる一冊です。

BOOK



まつ だ もえ こ
松田萌子さん
修士課程
認識形成系教育コース2年



齊藤洋
「ルドルフとイッパイアッテナ」
講談社文庫

URESHINO BULLETIN BOARD

オープンキャンパス2017

高校生、保護者、高等学校教諭、受験を検討されている方などを対象に、今年もオープンキャンパスを開催します(予約不要)。

⑤ 7月16日⑨ 9:30~15:30(受付9:00~15:00)

⑦ 加東キャンパス(詳細は本学ホームページをご確認ください)

参加した
高校生には
兵教大
オリジナルグッズを
プレゼント!

学部 進学ガイダンス

大学概要の説明、在学生体験談、入学者選抜試験の説明、個別相談、模擬授業等を行います(事前申し込み制)。

⑤ 10月9日⑨ 13:30~15:30

(受付13:00~15:00)

⑦ 神戸ハーバーランドキャンパス(兵教大ホール)

※詳細は、6月下旬~7月上旬に本学ホームページでお知らせします

⑧ 入試課 ☎ 0795・44・2067

☎ 0795・44・2069

☒ office-nyushi-t@hyogo-u.ac.jp



教材文化資料館 平成29年度前期展 「インクルーシブ教育に向けて」

「インクルーシブ教育」をテーマに、学校現場での取り組みや授業のユニバーサル・デザインについて紹介します。タブレットを使って学校現場で活用しているアプリが体験できるコーナーもあります。入り口壁面の「大きな樹」は、さまざまな色、模様、のマスクングテープを「葉」に見立て、来館者に参加いただき、大きな木に成長させる予定です。ぜひ一緒に、色とりどりの葉を付けたすてきな大樹にしませんか。



⑤ 8月31日⑨まで8:30~22:00、

土曜、日曜、祝休日10:00~17:00

⑦ 教材文化資料館(附属図書館内)

⑧ 8月10日⑨~15日⑨、19日⑨

※臨時休館する場合があるので、附属図書館のホームページなどで確認してください

↑「大きな樹」

⑧ 兵庫教育大学教材文化資料館 ☎ 0795・44・2362

文部科学省「外部専門機関と連携した 英語担当教員の指導力向上事業」 平成28年度 「大学と連携した英語指導力向上事業」

平成28年6月~29年1月 兵庫県内

兵庫県教育委員会と連携し、平成26年度から県内100人の教員(小学校40人、中学校40人、高等学校20人)を対象に実施。言語系教育コース(英語)の教員が研修プログラムの作成段階から協力しており、28年度は「外国語活動の授業実践」など多彩な研修テーマで講師を担当しました。



加東市制10周年記念応援イベント 「あそぼうよ! ひょうきょうっ子ランド!」

3月11日 加東キャンパス

キャンパス内を舞台にした、学生による手作りの探検イベント。加東市内の子どもを中心に総勢約200人の親子が来場し、5つの世界を巡って宝箱の鍵を探す宝探し「冒険の旅へ!」、館内に隠されたオリジナル絵本のページを探し求める「図書館探検ツアー」などに挑戦し、冒険家気分を満喫しました。



理科&科学の 地域でのサイエンス祭

学校の理科の授業ではじっくりと触れることのできないような実験機器を用意。自主的に科学実験を楽しみ、感動体験を持つ環境を創り出すことで、理科好きの子どもたちを増やし、科学への興味・関心を育みます(申し込み不要)。



⑤ 7月27日⑨~30日⑩ 13:00~16:00

⑦ 小野市うるおい交流館エクラ・ハートフルサロン

※危険な機器があるため、小学3年生以下は保護者同伴で参加してください。参加に係る障害保険等の加入は必要に応じて各自をお願いします

⑧ 社会連携センター

☎ 0795・44・2409 ☎ 0795・44・2320

NIE×教育ICT 神戸新聞社と連携協定を締結

5月12日 神戸新聞社

兵教大と神戸新聞社は、NIE(教育に新聞を)活動の普及を通じた健全な学校教育の進展を目的に連携協力協定を締結しました。昨年度は同社と共同で研究会を3回開催。また同社から講師を招いてキャリアデザイン講座を開催しました。今年度も、「NIE×教育ICT」を教育現場に活用するため、研究会のほか、本学の授業や免許状更新講習等への導入など、同社と連携した取り組みを進める予定です。



↑福田光完学長と高士薫社長



↑神戸新聞パートナーセンター長(当時の)太田貞夫さんによる講義の様子

公開授業「国際理解教育」

教職大学院・グローバル化推進教育リーダーコースの授業を一部公開します。

授業科目【国際理解教育】

「国際理解を通して、子どもたちの
主体性・多様性・共同性を伸ばそう」

坪谷ニューエル郁子さん

(東京インターナショナルスクール理事長)

熊平美香さん

(昭和女子大学キャリアアカレッジ学院長)



⑤ 7月9日⑨ 13:30~15:30(受付13:00~)

⑦ 神戸ハーバーランドキャンパス(兵教大ホール)

⑧ 無料

⑧ 本学ホームページ

(http://www.hyogo-u.ac.jp/)

トップ「イベント情報」をご覧ください

⑧ 神戸ハーバーランドキャンパス ☎ 078・361・5023



現場の課題にお答えします!

平野麻衣子講師が
日本乳幼児教育学会
研究奨励賞を受賞

「保育カリキュラムにみられる生活習慣形成プロセス」をテーマにした論文が評価され、平成28(2016)年11月に受賞。平野麻衣子講師は、「この受賞を励みに、乳幼児期の教育・保育という複雑で意義深い営みを明らかにすることに努めていきたいです」と語っている。



ふじ わら ただ お
藤原忠雄

学校心理・学校健康教育・発達支援コース教授

兵庫陶芸美術館と
連携協定を締結

4月、兵教大と兵庫陶芸美術館(三木哲夫館長)は、教員養成教育の充実と陶芸文化の振興のため、相互の事業を通じた交流を図ることを目的に、連携協定を締結した。教員を目指す本学の学生が陶芸文化を体験し、学ぶことで、将来、学校現場で授業や指導を行う際に寄与することが期待される。



ダナン大学(ベトナム)と
大学間交流協定を締結

2月、ダナン大学と大学間交流協定を締結した。同大学はベトナム中部に位置する国立の総合大学で、外国語学部日本語学科では日本語教育が盛んに行われる一方、英語による教育研究プログラムが充実し留学生も積極的に受け入れている。今後、多様な領域での交流や学術的・科学的協力などを図っていく。



キャンパス
トピックス



教員のメンタルヘルスの現状と、
悪化させないための視点について教えてください。



例年、教育職員の精神疾患を理由とする病気休職者数は5千人を超え、在職者数に対する比率は0.5%強であり、約180人に1人の割合です。しかし、これは精神的不調に陥っている教員の氷山の一角に過ぎません。年次休暇を最大限利用してのいでいる者、年次休暇を使い果たして病気休職でしのいでいる者なども数多くいます。

また、教員を目指す学生のメンタルヘルスは近年悪化しているとは言えず、近年の教員のメンタルヘルスの悪化は教員の資質そのものの変化ではなく、制度や仕事内容の変化が大きな影響を

及ぼしていると報告されています。

そのため、教員のメンタルヘルスの不調は、一部の教員だけの問題ではなく、最近の教員の個人的要因でもないという認識に立って、その対策を検討することが重要です。

教員のメンタルヘルスを保持するためには、職場を挙げたの多忙化回避の努力が最も重要です。その次に、職場環境の整備とセルフケアの向上が重要です。

職場環境の整備としては、お互いを支え合う情緒的支援体制や、担任一人が孤軍奮闘するのではなく、協力して問題解決を図ろうとする協働的生徒指導体制が必要

です。また、教員を守るともに成長を促進させる管理職のラインケアの充実が必要です。さらに、複雑化・多様化困難化している生徒指導上の諸問題に対応するための研修保障とその配慮が必要

です。

個人のセルフケアとしては、自らの情緒的安定を図るとともに冷静に物事に対応できるようにリラクゼーション、自らストレスを背負い込まないように受け止め上手を、相手の感情を逆なでしたり相手との関係を悪化させたりしないように自分の思いを爽やかに伝える表現上手を日頃から心掛けることが必要

兵庫教育大学からのお知らせ

☎=申し込み先 ☎=問い合わせ先

平成30年度学生募集 学校教育研究科(修士課程・専門職学位課程)

入学定員を8月選抜、11月選抜、3月選抜の3回に分割して募集します。

修士課程 ▶ 募集人員200人

◆人間発達教育専攻	開講 クラス	8月選抜	11月選抜	3月選抜
教育コミュニケーションコース	昼間 夜間	7人	3人	若干人
幼年教育・発達支援コース	昼間 夜間	7人	3人	若干人
学校心理・学校健康教育・発達支援コース	昼間 夜間	10人	10人	若干人
臨床心理学コース	昼間 夜間	20人	10人	若干人
			—	10人
◆特別支援教育専攻				
障害科学コース		15人	5人	若干人
発達障害支援実践コース		8人	2人	若干人
◆教科教育実践開発専攻				
言語系教育コース	昼間 夜間	14人	6人	若干人
社会系教育コース	昼間 夜間	12人	5人	若干人
理数系教育コース	昼間 夜間	12人	6人	若干人
芸術系教育コース	昼間 夜間	10人	5人	若干人
生活・健康・情報系教育コース	昼間 夜間	14人	6人	若干人

専門職学位課程(教職大学院) ▶ 募集人員100人

◆教育実践高度化専攻	開講 クラス	8月選抜	11月選抜	3月選抜
学校経営コース	昼間 夜間	10人	5人	若干人
授業実践開発コース	昼間 夜間	20人	10人	若干人
生徒指導実践開発コース	昼間 夜間	10人	5人	若干人
小学校教員養成特別コース		25人	5人	若干人
教育政策リーダーコース		5人	若干人	若干人
グローバル化推進教育リーダーコース		5人	若干人	若干人

8月選抜

◎出願期間 7月13日☎~21日☎〔必着〕

◎試験日 8月19日☎

◎合格者の発表 9月8日☎10:00

11月選抜

◎出願期間 10月12日☎~20日☎〔必着〕

◎試験日 11月18日☎

◎合格者の発表 12月1日☎10:00

3月選抜

◎出願期間 30年2月1日☎~9日☎〔必着〕

◎試験日 30年3月3日☎

◎合格者の発表 30年3月15日☎10:00

☎入試課 ☎0795・44・2067

大学院学校教育研究科説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要などについて説明します。個別相談や修了生・在学生の体験談の時間も設けます。

◎開催日

※13:30~(9月29日のみ19:00~)

加東キャンパス

10月7日☎

神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)

7月8日☎、9月9日☎、29日☎、12月23日☎、
30年1月6日☎、20日☎

AP品川アネックス(東京都港区)

6月24日☎、9月16日☎

福岡朝日ビル(福岡市博多区)

9月23日☎

☎☎ 企画課

☎0795・44・2359 ☎0795・44・2011

☎ office-kaikaku-t@hyogo-u.ac.jp

大学院入学相談室

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)への入学希望者を対象に電話、ファクス、メールで相談を受け付けます。

※平日のみ

☎☎ 大学院入学相談室

☎0795・44・2359 ☎0795・44・2011

☎ office-kaikaku-t@hyogo-u.ac.jp



本学関係者が瑞宝中級章および 兵庫県功労者表彰を受賞

5月、本学関係者が瑞宝中級章ならびに兵庫県功労者表彰(県政功労・教育功労)を受賞しました。長年にわたる県政の発展への貢献や、大学教育の振興に尽くした功績等に対する表彰です。受賞者は次の通りです(敬称略)。

【兵庫県功労者】

【県政功労】

▶ 藤本百男 兵庫県議会議員

(大学院修士課程修了生(第13期生))

【教育功労】

▶ 山田卓三 本学名誉教授

▶ 福本謹一 副学長

▶ 松田安隆 明石工業高等専門学校教授

(大学院修士課程修了生(第1期生))

【瑞宝中級章】

▶ 水野信男 本学名誉教授

▶▶ 編集後記

★今号は、現代的課題に取り組む人たちを取り上げました。「教育最前線」は「研修」、「クラブ紹介」は「リーダーズセミナー」、「キラリな人」は「子ども支援」、「現場の課題」は「教員のメンタルヘルス」。全てに共通するのは、関わり合いを持ちながら課題解決していくこと。特に「研修」では、グループワークが効果的な学びを生み出すための手法になることがよく分かります。(は)

※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページをご覧ください

◎大学の風景

米田豊副学長のゼミ(専門職学位課程 授業実践開発コース)の様子です。本学学部卒業生で現職教員の学生(左)は「社会科教育を究める」ため、ストレート学生(右)は「スーパーリーダーを目指して」、日々教育実践研究を進めています。



◎あなたの声を聞かせてください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりを目指しています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方にオリジナルのボールペンまたは付箋紙を進呈します。

【あて先】

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学大学広報室

☎0795・44・2431 ☎0795・44・2009

☎ office-koho@hyogo-u.ac.jp



兵庫教育大学モバイルサイト



スマートフォン



携帯電話